

ふうふなかよくねさけのみながらの
はなしに女ばういふやうとなり丁の
さか屋のむすめはしあはせだ

よいところによめにいかるゝそうな
ていしゆきゝてさうさけさかみゆひ

「ごできいたが此ころばゞさまが
あさくさのかいてうへむすめを
つれてゆかれたそのときちうで

ぶげんしゃのむすこどのが
見そめてもらひたいと人を
かけてたのみたちまち

えんだんできて此あいだに
こんれいだそうな
それについてかみ

ゆひどこの半頭
めは口あひの
よいをとこだ

むすめかいてうへいって
はなよめとなると
いひををつたおもしろい

ではないかおらがところの
おちよまなんぞはうめれつきが
あのぶきりようそのうへに

あのおもいほうそうで
大あばたはなよめどころか

夫婦仲良く寝酒飲みながらの話に、
女房云々様、「隣丁の酒屋の娘は幸
せだ、良い所へ嫁に行かるゝそう
な」。亭主聞きて「そうさ、今朝髪
結床で聞いたが、此頃はゞ様が浅草
の開帳へ娘を連れて行かれたその
時、途中で分限者の息子殿が見初め
て、貰いたいと人をかけての頼み、
たちまち縁談出来て、此間に婚禮だ
そうな、それについて髪結床の半頭
めは、口合の良い男だ、娘開帳へ行
って花嫁となると云いおった、面白
いではないか、おらが所のおちよま
なんぞは生れつきがあの不器量、そ
の上にあの重い疱瘡で大痘痕（あば
た）、花嫁どころか

むじを
とるもちと
むづかしいおてんばのいろ

けなしなんに
つけても子ども
はくろうなものだ

のふかゝあどんと
いへば女ばう
ていしゆの
みゝに口を
あてて

これくきゝなさい
このごろうはさに
きけば
おちよまも

いろおとこが
できたそうで
そはくして
なりませんと
はなせばていしゆ

きゝてにっこり
わらひかほの
いもゝうは
きになるじせつ

がきたり

聲を取るも、ちと難しいお転婆の色気な
し、何につけても子供は苦勞なものだ。
のふ、噂あどん」と云へば、女房、亭主
の耳に口を当てて
「これこれ聞きなさい、此頃噂に聞けば、
おちよまも色男が出来たそうでそはく
してなりません。」と話せば、亭主聞きて
にっこり笑い、「顔のいもも浮気になる時
勢が来たり」
分限者：金持ち
半頭：番頭の当て字か？
口合：間に立って口をきき、仲介を
すること。仲人。
いも：天然痘によって顔に残ったあと。
あばた。
浮気：浮かれて陽気になるさま。また、
そうなりやすい気質。